

登録No. R-017
 登録名 Ramucirumab/Erlotinib療法
 催吐性リスク 最小リスク
 適応疾患 非小細胞肺癌
 投与スケジュール

	薬剤	投与量	最大投与量	投与日	投与経路	投与時間	備考
Rp.1	マリン酸カルフェリミン 生食	5mg/body 50mL/body		d1	d.i.v.	30min	
Rp.2	ラムシルマブ 生食	10mg/kg 250mL/body		d1	d.i.v.	初回60min (忍容性良好なら2回 目以降30minでも 可)	ブドウ糖との混注不可 ワンシヨット静注禁 0.2又は0.22 μ mの蛋白透過性のフィルター使用
Rp.3	生食	50mL/body		d1	d.i.v.	30min (1・2クール目) 全開 (3クール目以降)	1・2クール目は経過観察&ラムシルマブフラッシュ用 3クール目以降はラムシルマブフラッシュ用
Rp.4	エルロチニブ	150mg/day		d1-14	p.o	1日1回 食事の1時間以上前 又は 食後2時間以降	

1クールの期間 2週間
 標準クール数 なし
 最大クール数 PDまで
 休業期間の規定
 投与間隔短縮の規定
 その他（副作用・PS規定等）

投与基準： 好中球数 $\geq 1.5 \times 10^9/L$ 、ヘモグロビン $\geq 9.0g/dL$ 及び血小板 $\geq 100 \times 10^9/L$
 T-Bil \leq ULN、AST,ALT $\leq 2.5 \times$ ULN（肝転移に起因している場合は、 $5 \times$ ULN以下）、CCr $\geq 50mL/分$
 抗凝固療法を受けない場合:INR ≤ 1.5 、PTT $\leq 1.5 \times$ ULN
 標準用量の抗凝固療法を受けている患者は経口抗凝固薬又は低分子量ヘパリンの用量が安定している必要がある。
 ワルファリン服用中の場合はINR3以下で活動性出血がない、あるいは出血リスクの高い（例えば、大血管への腫瘍浸潤や既知の静脈瘤）
 蛋白尿 $\leq 1+$ （蛋白尿 $\geq 2+$ の場合はUPC比 $< 1g$ ）
 減量：ラムシルマブ：10mg/kg \rightarrow 8mg/kg \rightarrow 6mg/kg \rightarrow 5mg/kg \rightarrow 投与中止
 エルロチニブ：1日1回50mgの最低用量になるまで50mgずつ減量
 副作用：ざ瘡様皮疹、爪囲炎、皮膚乾燥、下痢、口内炎、脱毛、AST/ALT上昇、高血圧、蛋白尿、鼻出血、infusion reaction、間質性肺炎など